

2020年度 第31回 中唐文学学会大会のお知らせ（第2号）

残暑厳しき折、会員の皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。

第31回中唐文学学会大会は、10月9日（金）の14時より、以下の要領で開催いたします。ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染拡大の現状に鑑み、当初の予定（法政大学で開催）を変更して、すべてのプログラム（※懇親会を含む）をオンラインで開催することにいたしました。大会・懇親会の参加のお申込みは、この「お知らせ第2号」の2頁「お願いとお知らせ」にご案内がございます「お申込みフォーム」より行ってください。例年とはお申込みの方法が異なりますので、ご注意ください。

会 場：Web会議サービス「Zoom」を用いてオンラインで開催いたします（参加無料）

日 程：10月9日（金） 14時開始

~~~~~  
13時40分～

「Zoom」ミーティング・ルームへの入室開始（受付不用）

13時50分～

開会の挨拶

### ・A、研究発表の部（14:00～16:10）

14時00分～15時00分 **第一発表**

題 目：詩跡としての三郷の成立とその変遷～唐代から宋代まで～

発表者：富 嘉吟（立命館大学）

15時10分～16時10分 **第二発表**

題 目：消える茶商人

発表者：福田 素子（聖学院大学・非）

### ・B、シンポジウムの部（16:20～17:40）

16時20分～17時40分 **シンポジウム**

題 目：遠隔授業における古典・語学——実践報告と展望

パネリスト：遠藤 星希（法政大学）

大山 岩根（亜細亜大学）

高芝 麻子（横浜国立大学）

長谷川 真史（東京学芸大学）

17時50分～18時00分 **総会**（※今年度は簡略化して行います）

18時00分～19時30分 **懇親会**（※大会と同じく「Zoom」上で行います。途中参加・途中退室可）  
（※お食事・お飲み物は各自でご用意ください）

## お願いとお知らせ

▼本年度の大会および懇親会の参加のお申込みは、下記の「お申込みフォーム」より行ってください。

右側のQRコードもご利用頂けます。

※「お申込みフォーム」は中唐文学会のブログにも掲載予定です。QRコードをうまく読み込めない方は、ブログの「お申し込みフォーム」へのリンクをご利用ください。なお、ブログのフォームはURLが異なりますが、どなたさまもいずれからお申し込み頂けます。

※「お申込みフォーム」にお申込み頂いたメールアドレス宛に、10月1日（木）以降、順次ZoomのURLをお送りいたします。

※Zoomミーティングに参加するには、パソコンにカメラやマイクが内蔵されているか、外付けのWebカメラを用意する必要があります。各自でご確認のほど、宜しく願い申し上げます。なお、Zoomの技術的なサポートにつきましては対応いたしかねます。あしからずご諒解ください。

※ご不明の点は幹事までお問い合わせください。

### 【2020年度 中唐文学会 大会・懇親会 お申込みフォーム】

<https://forms.gle/1qV74JEzB3Dr6mnx8>



▼本会は、会費の納付で会員資格継続の作業を進めます。

同封した振込用紙に金額をご記入の上、お振り込み下さいますようお願いいたします。

【振込先】 口座番号 00100-8-631654

口座名称 中唐文学会

正会員3,000 円、準会員（会報不要の方）1,000 円

準備の都合上、会費振込および大会・懇親会の参加のお申込みは  
**9月18日（金）まで**にお願い致します。

### 各問い合わせ先

|              |                              |
|--------------|------------------------------|
| 大会関連：        | 遠藤星希（xingxi.y@m4.dion.ne.jp） |
| 幹事（会報）：      | 大山岩根                         |
| 幹事（会計）：      | 高芝麻子                         |
| 幹事（広報・名簿管理）： | 長谷川真史                        |

## 【A、研究発表の部】

### 「詩跡としての三郷の成立とその変遷～唐代から宋代まで～」

富 嘉吟（立命館大学）

三郷という地名は唐代以前から存在し、地理的には現在の河南省洛陽市宜陽県所轄の三郷鎮にほぼ一致する。唐代に入ると、河南府の福昌県に三郷駅という駅が建設された。これは洛陽の南西部に位置し、長安と洛陽を結ぶ幹道上に位置する重要な交通拠点となったので、詩人たちはしばしば三郷を主題とする詩を詠唱している。本日の発表では、唐代から宋代までの三郷にまつわる詩歌を集め、詩跡としての三郷の成立とその変遷について検討する。

現存する資料によれば、詩跡としての三郷は、玄宗がこの地を遊覧・詠唱した時に初めて女几山と関連づけられ、次第に隠逸または神仙の色彩を帯びるようになった。特に、玄宗が三郷駅楼に上って女几山を眺めたことから、霓裳羽衣の曲を作ったという逸話が生まれ、中唐以降、開元盛世を典型的に映す場面として認識されるようになった。晩唐に入ると、若耶溪女子の「三郷詠」が現れ、その影響から後世に多くの唱和詩が生まれることとなった。これらは男女の愛を主題としており、そこに描かれた三郷は従来の詩に詠われたそれとは印象をかなり異にしていた。

宋代に入ると、三郷駅楼は寺院に改築されたが、詩跡としての三郷は今も霓裳羽衣の曲の逸話、さらには玄宗と楊貴妃の悲劇と結び付けられ、近隣の連昌宮とともに唐王朝の最盛期である玄宗時代の象徴とされている。それに対して、「三郷詠」は僅かな例を除いて、一般の詩人たちにはあまり重視されていないようである。「三郷詠」は一見、玄宗と楊貴妃の物語と同じく男女の愛を詠ったものではあるが、後者は恋愛の描写を越えて国の運命や王朝の興衰という重大な主題をも孕んでおり、スケールの面では両者比較にならない。詩跡としての三郷が、「三郷詠」よりも玄宗と楊貴妃の物語の情景として一般に受け入れられてきたのは、晩唐詩における男女の愛への強い関心から、宋詩においては議論を重んじる傾向へと移り変わったことを反映する絶好例であろう。

### 「消える茶商人」

福田 素子（聖学院大学・非）

白居易「琵琶行」は、（実際の出来事かフィクションかその中間かはわからないが）九江郡の司馬に左遷されていた時に、夜船に乗って琵琶を弾く女に出会い、その身の上話を聞くという内容の楽府である。女はもと長安の妓女であったが、盛りを過ぎてから商人と結婚し、九江に連れてこられたのである。そしてその夫は女を家に置いたまま一人商用の旅に出て帰らない。

彼女の夫は茶商人であった。ここで心配になるのは、この夫は無事女のもとに帰って来られるのか、ということである。なぜならば唐代小説に登場する茶商人には、旅先で危険な目に遭い、時には命を落とす者もいたから

である。

中晩唐期の牛僧孺『玄怪録』または李復言『続玄怪録』所収「党氏女」や高彦休『唐闕史』「崔碣」などの『太平広記』所収の小説には、不安定な身分で、一人遠隔地に赴き、大金を動かし、行く先々で人の富に対する羨望をかき立て、故に悲惨な目に遭う茶商人の姿が描かれている。このような茶商人像は、中晩唐期の、茶の経済的な位置一つまり生産地が南方であるのに対して消費地は北方とかけ離れていること、中央政府と節度使がそれぞれに課税して利益を追求していたこと、その課税額がそっくりそのまま商品価格に上乗せされ、茶を生活必需品として消費していた庶民の生活を圧迫して、茶商人が怨嗟の的になっていたこと一が反映している。

また上記の小説の宋代以降のリライトを参照すると、いずれも茶商人という属性が変更されており、このことから上記の茶商人像が、中晩唐期に特有な茶の経済状況によって形作られたこと、そして茶という商品の経済的なポジションが変わってしまえば、消えてしまうものであったことが分かる。

「琵琶行」の茶商人についても、長安の妓女を娶うような派手な生活態度や、一人で遠隔地に商売に行ったまま帰らないなど、小説中の茶商人と共通する性質を見いだすことが出来るのである。

## 【B、シンポジウムの部】

### シンポジウム「遠隔授業における古典・語学——実践報告と展望」

#### 中唐文学会 2020 年度 幹事一同

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の春学期は多くの大学でオンライン授業への切り替えを余儀なくされ、教員たちは生涯ではじめての経験に戸惑いながらも、学生に教育の機会を提供するべく、手探りで遠隔授業の方法を模索していった。この未曾有の事態に、現場の教員たちはどのように対処し、どのような問題を克服し、どのような問題が残されたのか。今回のシンポジウムでは、今年度の中唐文学会の幹事一同が登壇し、それぞれの授業実践報告を行うことにより、中国古典文学や中国語の遠隔授業の可能性や問題点を会員各位と共有し、今後の遠隔授業のあり方について考えるきっかけを作りたいと思う。

以上